

島田正治

二月になった。「白雲ノート」このあいだ書いて送ったばかりなのだと思う。確実に一ヶ月が過ぎているのである。その間に、家内が一時、日本へ戻った。約三ヶ月の予定で五月初旬、またメキシコへ来る。メキシコ市まで飛行機で送り、帰りは久しぶりにバスで帰ってきた。以前にくらべるとバスもよくなり快適で、飛行機のビジネスクラスなみとってよい。驚くのは定刻にぴたりと出発、また予定の時間にこれもぴったり到着、二三十年前のメキシコを知っている者にとっては考えられないことでもあった。車中の清掃も行き届いてゴミひとつ落ちていない。メキシコ市からグアダハラ市まで約六百キロ、これを七時間で走る。東京と京都・大阪間ぐらいか。乗る時に缶ジュースとサンドウィッチをくれる。ノンストップ。車窓からは枯れたメキシコの中央高原の風景をひとり、のんびりと味わった。主食のとうもろこしの収穫が完了して、あとは荒地、そのままにほったらかしにしてある。ことしの六月の雨期の到来を待つ。

ところがひとつ気がついたことがあった。途中でグアナファト州を通過するが、ここがみな緑畠で延々と続く。バスの中からでは何が植えてあるのかがわからなかったが、つまり、とうもろこし収穫後も何か植える。これには灌漑政策がとられるようになった。地中からモーターで水を吸い上げたり、またダムを作ったりしたわけだ。日本の五倍半あるといわれるメキシコの国土、その農業も進んできたといってよい。

\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

家内が居なくなると、自炊となる。ひとりが食べる分量などたいしたことはない。「口あれば食わずということなし」だ。何か食べている。お腹が減れば何んでもおいしい。料理もけっこう楽しい。ここはメキシコの田舎故、たいした食材はないが、それでもあれこれ工夫する。概して日本人は米と醤油、みそがあればよい。米はアメリカ産のカルフォルニヤ米はねばりもあり粒は大きくて日本純米に迫るものがある。現地でいろいろ改良と研究が進んでいるらしい。

\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

テラスの横の畳、四、五枚ほどの花壇をつぶして、ここに日本の野菜を植えている。種は日本の種屋から取り寄せた。主に漬け物用にする小松菜、野沢菜、水菜などで、これがよく育つ。かくして正真正銘の一夜漬けができる。

朝起きて、少し固くなった冷たく白いご飯に緑いお茶漬けそして漬けたてのお漬け物、これに勝るものはなく、特に京都生まれのわたしには欠かすことのできないものでもある。

温暖なメキシコはその発育、生長も早い。種を撒いて、二、三日したらもう白い芽が出ている。やがて双葉、本葉となるが、この頃、これを見計ってちょうちょうが黄色の卵を産みにくる。知らないでいると卵がやがて孵化し幼虫となる。これは、朝に夕に、毎日見ていないといけない。卵を手でつぶしたり、虫を殺したりするのはあまり気分のいいものではない。また、気をつけなければいけないのは蟻の大群で、夜これにおそわれると、一晩にして全滅という憂き目にさらされることになる。だから、これも必ず、就寝前に一度見に行く必要がある。

(・・・次号につづく)